

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援　そよかぜ			公表日		2024年　　1月　15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	76%	24%	職員間で声を掛け合い、子どもたちを安全に見守れるように気を付けている。利用定員に対しては規定通りの職員数だが、より充実した保育を行いたいと思うと人手不足だと感じる。	職員の休みなどによっては業務が立て込むこともあるので、その際は応援を頼むなどして対応できるよう改善していく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	94%	6%				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	94%	6%	職員間で出た意見はすぐに検討し、その都度話し合いながら対処している。	まとまった時間を取ることが難しいが、今後そういった時間も取れるよう検討していく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	82%	12%	他部署からの意見をもらい、参考にしている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	94%	6%		定期的に研修は行われているが、子どもの発達について学ぶ機会がもっとあるといい。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	その日の気づきなどはその都度職員間で振り返っているが、業務上全員で話をするのが難しくホワイトボードなどを利用して情報をタイムリーに共有できるよう工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%		
	28	(28～30は、センターのみ回答)	71%	12%		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	76%	12%		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	35%	41%		配属されて間もなく、わからない。
	31	(31は、事業所のみ回答)	0%	0%		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	年長児を対象に地域の保育園との交流を行っている。年2回の全体交流では、地域の園児を招いて年中児も交流する機会が持てるようにしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	82%	12%		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	現在父母の会はないが、親子遠足、親子通園日、行事ごとの制作会などを通して交流できる場を設けている。きょうだい同士の交流に関しても、親子通園日への参加ができ、そこで交流することができるようにしている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	59%	41%		コロナ等の影響もあり、完全に地域に開かれているとは言えないため、今後の課題として検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	定期的に訓練を行ったり、マニュアルの見直しを行っている。	マニュアルに関しては、要望があれば開示していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	94%	0%		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そよかぜ(くれよんはうす・なかよしはうす)			
○保護者評価実施期間	R6年 9月 1日		～	R6年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数)	51
○従業者評価実施期間	R6年 9月 1日		～	R6年 9月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	17
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	肢体不自由、重症身心障害、知的障害、発達障害と様々な障害を対象とし、保育士だけでなく医師、看護師、リハビリ専門職員、栄養士など多職種のスタッフがかかわり、連携して一人一人の現状に合わせた支援を提供している。	体調不良時には速やかに医師が診察を行ったり、主治医の指示書に基づいた処置を看護師が行ったり、リハビリ専門職員も活動に参加し、リハビリの視点で子どもの育ちを支援したり、栄養士が食事形態や偏食・アレルギー対応など細やかな対応をするなど、それぞれの専門を活かした支援を連携して行っている。	今後もケース会議などを通して、利用児の情報を常に共有できるように、しっかりと連携を図る。

2	単独通園での保育となっており、家族以外の大人とのかかわりや同年代のお子様とのかかわりを通して社会的な経験・発達を促すことができる。	保育士との信頼関係を築き、その関係を基盤として周囲の大人やお友だちへの興味・関心を広げ、遊びを通して言葉やジェスチャーでの簡単なやりとり、集団でのきまりやルールが身につくような活動を取り入れている。また、地域保育所との定期的な交流保育も行っている。	一人ひとりの課題や、発達の現状に違いがあるので、集団の中でどの子ども主体的に楽しめる準備や環境設定、工夫をしていく。
3	日々の連絡帳や送迎時、定期的な懇談会などで保護者と情報交換・共有を行い、家庭と連携した支援を行っている。また、親子通園日や親子遠足、行事制作などを通して、保護者同士の交流を持つ機会が設けられている。	普段から保護者とのやり取りはこまめに行い、些細なことも共有したり、困りごとや相談にもその都度応えるようにしている。また、体調不良時やいつもと違った様子があった際には速やかに情報を伝えるようにしている。保護者同士の交流も、なるべく和やかな雰囲気で行えるよう環境作りをしている。	今後も保護者との連絡、情報交換・共有をしっかりと行い、統一した支援が行われるよう連携を図り、保護者同士の交流も深めていけるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	併行利用児が増えてきて、連絡帳の共有や保護者を通じての連絡、保育所等訪問など他園や他事業所との連携を図っているが、まだまだ課題が多い。	併行通園先との懇談など、お互いがなかなかまとまった時間を見つけて情報交換・共有する時間が持てない。	利用開始時や、モニタリングの機会を通じて、直接支援にかかわる現場職員同士のつながりが持てるようにしていく。
2	支援プログラムや自己評価、マニュアルなどの公表している情報についての発信が十分にされず、保護者に伝わりにくい。	それらがホームページ上で公開されていることや、そよかぜ内に掲示されていることは入園時に伝わっているが、更新があったその都度伝えていないため浸透していない。	年度の初めにお便りで情報を発信し、更新されたものがあれば、その都度連絡帳で伝えていく。
3	家族支援プログラムや家族も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。また、きょうだい児への支援が行われていない。	親子通園日を利用して研修会を開いたこともあったが、なかなか招集することが難しい現状。きょうだい児も年齢が上がってくると親子通園日などに一緒に参加することがなく、会う機会がない。	今後は児童発達支援センターそよかぜとも連携し、保護者への研修会や情報提供を行っていく。